

国際共同研究事業 令和4(2022)年度実施報告書

令和 5 年 4 月 28 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

国立成育医療研究センター 社会医学研究部

[職・氏名]

部長 森崎菜穂

[課題番号]

JPJSJRP 20211709

1. プログラム名 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI)

2. 研究課題名

(和文) 新型コロナウイルス流行下における日英の親子の精神的健康とニーズの推移分析から学ぶ

(英文) Learning from the trajectories of mental health challenges for children, young people and parents across Japan and UK over the course of the COVID-19 pandemic: a mixed method analysis

3. 共同研究実施期間

令和 3 年 12 月 1 日 ~ 令和 6 年 11 月 30 日 (3 年 0 ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

University of Oxford, Post-doctoral researcher, Simona Skripkauskaite

5. 当該年度実施状況

- ・当該年度実施計画書の「当該年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの実施状況がわかるように記載してください。
- ・当該年度又は前年度(複数年契約を締結し繰越を行った場合)の各費目における増減が研究経費総額の 50% (この額が 300 万円を超えない場合は 300 万円)に相当する額を超えた場合は、その理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。

2022年度は、ワークストリーム1, 2を継続し、ワークストリーム3を開始した。

英国チームとは 2022 年 4 月以降、進捗の共有や、ポストドクによる研究成果発表を行う会議を月1回 90 分で行っている。

WORKSTREAM 1.

本ワークストリームでは、研究開始前までに集めたデータをもとに、子どもたちのメンタルヘルスの経時的推移、およびそれにコロナ禍の社会的制限がどのように影響するのかを調べる。

2022 年度は、コロナ×こどもアンケートの結果から 2020-2021 年のメンタルヘルスの推移、および、この推移がコロナ禍の制限度合いに関する尺度 Oxford COVID-19 Government Response Tracker (OxCGRT) Stringency Index(Hale et al., 2021)との関連を原著論文として報告した。

また、日英で共通で取得している SDQ のデータについて、ファイル共有サーバを用いてデータシェアリングを行い、Stringency Index の影響が日英でどのように異なるのかを調べる研究を開始した。

WORKSTREAM 2.

本ワークストリームでは、日英で3回の調査を実施し、子どもたちのメンタルヘルスの経時的推移がその社会的背景によりどのように異なるのかを調べる。

第一回調査は 2022 年度 3-4 月に第2回目調査は 2022 年 10-11 月に実施した。また、3 回目の調査は、英国では 2023 年 3 月 37 日から開始し、日本では 2023 年 4 月 1 日から開始に向けて調査資料の作成、発送準備を行った。主要評価項目は両国とも、Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ)、Patient Health Questionnaire 9 modified for adolescents (PHQ-A)、Depression, Anxiety, Stress Scale (DASS-21) である。

2020 年から 2022 年秋に実施したデータについて、日英それぞれで縦断データの報告書を作成し、公開した。(イギリス: [Changes in children's mental health and parents' financial stress from March 2020 to October 2022 - Co-Space \(cospaceoxford.org\)](https://cospaceoxford.org) 日本: [アンケートの結果をみる | 国立成育医療研究センター \(ncchd.go.jp\)](https://ncchd.go.jp)) 医科歯科大学では本データを用いて、コロナ差別を軽減するための家族・学校におけるサポートに関する分析を行い、論文投稿を行った。日本体育大学では、本データを用いて、保護者のメンタルヘルスの推移と要因に関する分析を行った。

WORKSTREAM 3.

本ワークストリームでは、WORKSTREAM1、WORKSTREAM2 で得られた結果を踏まえて、「パンデミックでの経験を振り返り、社会がこどもたちのために出来たらよかったこと」を子どもたちが提案することをサポートする。

2022 年度は、2022 年秋に実施した「2022 年度 新型コロナウイルス感染症流行による親子の生活と健康への影響に関する実態調査」に「子どもの意見の尊重のために、社会がすると良いこと」について調査票に自由記載で回答してもらう方法でデータを収集した。また、結果の概要を公開した(子どもたちから学ぶ「子どもの権利」を守るために (ncchd.go.jp))

また、2023 年度に行うワークショップへのこどものリクルート方法、ワークショップの運営方法、子どもたちによる提言のまとめ方、の方法論について、英国の研究者、英国の研究者グループの受託先となる NPO と議論した。

7. 研究発表(当該年度において本共同研究の一環として本事業による支援を受けたことを明示して発表したものについて記載してください)

[雑誌論文] 計(2)件 うち査読付論文 計(1)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、論文標題等 ^{*2}
1	無	Goto R, Piedvache A, Hangai M, Yamaoka Y, Sampei M, Sawada N, Okubo Y, Tanaka K, Morisaki N, Hosozawa M. Time trends in emotional well-being and self-esteem in children and adolescents during the COVID-19 pandemic. Child Adolesc Psychiatry Ment Health. 2022 Nov 23;16(1):89
2	無	Rahman N, Ishitsuka K, Piedvache A, Tanaka H, Murayama N, Morisaki N. Convenience Food Options and Adequacy of Nutrient Intake among School Children during the COVID-19 Pandemic. Nutrients. 2022;14(3):630
3		

[学会発表] 計(1)件 うち招待講演 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	発表者名、発表標題等 ^{*2}
1	無	Ishitsuka K, Rahman N, Piedvache A, Morisaki N. 76. Determinants of Help-Seeking Behaviors for Depression among Japanese Adolescents during the COVID-19 Pandemic, Society for Adolescent Health and Medicine (SAHM) 2023 Annual Meeting
2		

[図 書] 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、著書名等 ^{*2}
1		

*1 相手国側参加者との共著(共同発表)がある場合は○と記入。

*2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年(西暦)、最初と最後の頁、掲載論文の DOI、学会発表の場合は発表者名、発表標題、学会等名、発表年(西暦)、発表地(国名、国外開催の場合のみ)、図書の場合は著者名、著書名、出版社名、発行年(西暦)、総ページ数、ISBN、など(順番は入れ替わってもよい)。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。

*3 足りない場合は適宜行を追加すること。

8. 本事業による産業財産権の出願・取得状況(当該年度に出願又は取得したもの)

[出 願] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、出願年、国内・外国の別
1	なし

[取 得] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、取得年、国内・外国の別
2	なし

* 必要に応じて、欄を追加してください。